

現代剣道に小野派一刀流が与えた影響－高野佐三郎と笹森順造を中心に－

The influence of Ono-ha-ittou-ryu upon modern kendo: Focusing on Jyunzo Sasamori and Sasaburo Takano

1K04A143-1

高原 和彦

指導教員

主査 志々田文明先生

副査 矢野尊之先生

はじめに

古流を取り入れた剣道稽古が少なくなっている今日、私は幸いにも、古流を取り入れた稽古を早稲田大学剣道部で学んできた。その経験から私は、古流の稽古を現代剣道の稽古に用い、さらに応用することが可能ではないかと考えるに至った。そこで、竹刀剣道誕生から今日の剣道界に貢献してきたといわれる小野派一刀流継承者の二人、高野佐三郎と笹森順造の稽古法や鍛錬法を考察することによって、「小野派一刀流から何を学びどう影響をあたえてきたのか」そして、「そこから二人が剣道のあり方をどう捉えてきたか」を検証したいと考えた。そこで、実際に私が同部で学んできた小野派一刀流の形稽古を加えて、現代の竹刀剣道に応用できる点を探求し、今後の剣道界に活かせる部分を考察したい。

本研究の目的は、まず(課題1) 小野派一刀流の継承者の高野佐三郎と笹森順造の二人の師範が、流派から何を学び、どのように剣道界に広め、取り組んできたかについて考察する。また、相互を比較し、かつ双方の長短を考える。次に(課題2) 流派剣道と現代剣道を比較し、考察する。特に、高野佐三郎と笹森順造の稽古法を見直すことで、時代ごとに行われてきた稽古によって剣道のかたち(竹刀捌き、体捌き)がどう変わってきたかについて検討する。二人の稽古法の共通点も考えてみる。そして(課題3) 現代剣道の稽古に流派稽古を用いる際、そこで得られる理法について考察する。自己の体験や小野派一刀流の形から調べる。

一章 近代剣道の歩み

現在の日本の剣道界には、日本剣道形というものがある。これは1911年(明治44)、文部省が中学校の教科科目に剣道を取り入れることから1912年(大正元)に制定された。新たに制定されたこの日本剣道形(当時は大日本帝国剣道形)に用いられた五つの構えは、全て小野派一刀流の祖である小野次郎右衛門忠明の拵えた五行の構えであった。ここに、現代剣道と小野派一刀流のつながりを見つけた。この小野派一刀流形稽古ではこれまで不可能とされていた打突つを含んだ稽古を可能とし、この小野派一刀流組太刀60本は、防具をつけて行う現代剣道の稽古の基礎に繋がるという見解に至った。

二章 高野佐三郎

高野は小野派一刀流の構えや打ち込む形稽古が、竹刀剣道に通ずるものがあると考えた。それは、竹刀剣道において求められる打突つ時の手の内や足運び、そして打ち込む動作には、一刀流の形やその形で行う技などが応用でき、その基礎となっているということ根拠からであった。その稽古法も、派筋の整った打突つのできる打ち込み稽古が代表的なものとなった。高野自信も稽古の場において、自らが竹刀を持ち習技者にわかるように実演して指導した。

三章 笹森順造

笹森順造は組太刀60本に加えて、一刀流切り落とし稽古を付け加えることで、現代剣道における洗練された打突つと精神力を持って相手に打ち勝つという、気力と技術の併用を含んだ稽古の取り組みを行った。また、剣道を行うことにより自己の人格形成に通じ、そして剣道に楽しく携わってもらうように働きかけてきた。今日にも行われている稽古体系の原型である「稽古の六方式」を考案し、習技者がより剣道に取り組みやすく、上達の手助けとなるべき稽古法で指導に励んだ。

結論

当てっこになっている現在の剣道では、打突つを含めた形や切り落とし稽古は非常に効果があるといえる。つまり、進化してきた竹刀剣道において、剣道の本質を理解するということである。剣道強化法の本質とは、正しい姿勢と充実した気力、打突つする際の正しい刃筋と適当な竹刀の振りで打ち込むことである。剣道稽古法が体系化されたことにより、競技者にはその稽古一つ一つの本質的なことをあまり考えず、機械のように唯量をこなしているだけである。そのような状況下では、普段と違った防具(鬼小手)と木刀によって打ち込むことで、剣道の本質を再考させることにおいて確実に効果が得られることがわかる。また、小手のみを用いた稽古は、普段より己を守るものが少ないことにより余計に緊張感が出る。緊張感は習技者の集中力の向上につながり、全体としても引き締まる効果を発揮する。

竹刀剣道の基本となっている小野派一刀流を少しでも現代人に知ってもらい、稽古として取り組むことで、剣道家と剣道指導者に今一度剣道の本質を見直してもらい、今後の改善に繋がることを期待している。